

三原市総合戦略審議会 令和4年度第3回会議 議事録

三原市定住自立圏共生ビジョンの効果検証に関すること

1 ビジョン全体に対する意見	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットはどこなのか。資料1では25～44歳とあるが、こちらはどちらかといえば高齢者向けの施策が多い印象。定住で考えたときに20～30代、60～70代いずれをターゲットにしているのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どれも大切な施策と思うが、薄く広く、的が広がっている印象。社内に、三原で生まれ育ち、進学で上京したが、Uターン就職で入社した行員がいる。結婚当初は市内のアパートを賃貸していたが、マイホーム取得にかかり、通勤や学校の点から福山市内で家を建てたとのこと。地元に戻ってきたのに非常にもったいないと思う。ターゲットとなる世代をある程度絞ったらどうかと考える。 <p>→【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、定住自立圏自体が、今住んでいる人の生活基盤を維持する方向性が高かったため、インフラの整備やある程度の人口密度を確保しながら住んでいる人が生活しやすいような事業がほとんど。住み続ける取組では、住んでいる人が外に出ていくことを防止することも重要な視点となるため、総合戦略改定後を見越して、定住自立圏も変わっていかなければならないと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は重要な指標であるが、果たしてこれがまちづくりの最終目的でよいのか。まちづくりとは、住んでいる人が安心できる、楽しく一体感を持てることだと思う。目標設定については、もっと議論があっても良いのではと思う。 ・現在は、個別事業の点数だけを羅列して評価しているが、個別事業だけでなく戦略的な取組を評価する方が、評価としては良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この共生ビジョンの全体像は、委員も市も市民も含め、全体で共有すべきと思う。市民が共有できるビジョンをつくっていくことが必要と思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全国で人口が減少していくなかで、人口を取り合うより、今いる人が幸せに安心して暮らせるようにすることも大事。当たり前を維持することも大事だと思うが、選べる魅力的なものが他の市町村にあると人は外に流れてしまうため、三原市にもリードしてもらえる環境ができたらと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民間では利益を追求して、利益が最大になるように施策を組み立てる。この考え方に基づくると、行政にできることは限られている点で、次期総合戦略の策定の際には、アドバイザーなど民間の知恵を活用したり、地元愛の強い人が

	<p>参画したりして、一緒になって取り組める事業が一つでも二つでも増えると、施策の実現性が高くなるのではと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者など今いる人にターゲットを絞った印象。ここに子育ても入らないと、ビジョン的にバランスが悪いのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の流れで行くと、人口減少は避けられない中で、人口に対する危機感のメッセージをもっと入れていかないといけないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限の社会的機能を維持するために人口は必要だと考える。10年以上前に府中市で勤務していたときに、出産ができる病院がなくなる旨の報道があった。前回資料で三原市では出生数が半減したとあった。仮に現在市内にある病院を2か所に拡充するとしても、実際に出生数が減少している状況でこれが可能なのかという疑問も残る。やはり一定数人口の維持のための政策は必要と考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の共生ビジョンは令和2年3月策定でコロナ前のもので、今後検討するときはポストコロナの時期になる。3年間を通して、コロナで変わったものと変わらないもの、さらに、変わったもののなかでも戻るものと戻らないものを見極めないといけない。最たるものが働き方改革と地域に対する価値観だと思う。後者については、不便な郊外よりもできるだけ利便性の高い中心部という価値観があったなかで、働き方改革に伴ってPCがあれば場所を問わず仕事ができることが定着しつつあり、必ずしもこのような価値観が普通ではなくなるということもある。ただ、これは全国的な傾向（働き方改革といっても大企業が中心）に過ぎなくて、コロナを巡ってこのような動きのなかで実際三原はどうか、三原のなかで働き方改革によって地域に対する価値観がどう変わってきているのかを、共生ビジョン策定前にきちんと把握しておく必要があると思う。 ・また、立地適正化計画について、都市機能誘導区域が三原駅と本郷駅周辺の地区になっているが、前述のとおり地域に対する価値観が広がっていくとするならば、どこに住むと満足度が高いのかを長期的な視点で見たときに少し変わってくるのではと思う。この点で、立地適正化計画との整合性も大事だと思う。 ・さらに、ターゲットについて年齢層も重要だが、今後は関係人口の創出も大事だと思う。住み続けてもらいたいのは、果たして住民だけなのか、ワーケーションが増えてくると移住者あるいは仕事と併せて家族と一定期間やって来る人がいるとしたならば、施策は随分変わってくる。例えば、ワーケーションでも情報セキュリティやスペースなどのハード面の対策だけではなくて、子ども連れで来る場合は、一定期間子どもを預けられる保育施設があるのか、家族が楽しめるアクティビティ（体験コンテンツ）があるのか、地域とのつながりを不安に思う人をサポートする地域コーディネーターのような役割を担う人がい

<p>委員</p>	<p>るのか、こういった施策が大事になると思う。今住んでいる人たちだけで定住自立圏共生ビジョンを立ててよいのか、コロナで少し変わってきた外からの人の動きや住まい方、滞在型など住民だけじゃないターゲット層も視野に入れることがあっても良いのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になったのは、共生ビジョンに子育て支援や子育て関連がないこと。 ・また、身近な事例で、仕事の関係で市内にマンションを買って子育てをしている人（両親が県外在住）が、コロナ禍のなかで出産・育児をするとなったときにどこに相談したらいいかわからず、マンションを売却してまで他市町へ移り住むことを考えた夫婦がいる。コロナの影響で、行政では支援センターや児童館が閉まり、相談できる場所がわからなかったとのこと。行政だけでやるのではなく、地域コミュニティとも連携して情報が多くの人につながっていくことが必要だと感じた。これまでに児童館からの依頼を受け民間でやっている事業を後援したこともあったが、個人につながること（名刺を渡すなどの営業など）は禁止されており、果たして来てくれるママのためになっているのかという疑問もある。せっかくつながったご縁を、民間・行政・ママ・家族につなげていくと、もっと住みよくなると思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共生ビジョンを考えていくときに、コロナで価値観や生活環境が激変していることに対する視点を取り込むことが必要と考える。これがDXにもつながり、働き方や仕事の仕方、定住圏に波及してくると思う。 <p>→【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略と定住自立圏の2つの計画があるが、市では、人口を獲得してくる方（攻め）を前者、今住んでいる人に住み続けてもらう方（守り）を後者として棲み分けを整理して策定した。意見のあった不足する点（子ども子育ての視点や立地適正化計画との整合性など）は補っていくことを考えていきたい。今後見直しをしていくうえで、攻めと守りの分け方自体に無理があるのか、あるいはどちらかの計画に一本化した方がよいなどご意見があればいただきたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの戦略としては、1つの方がわかりやすいと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共生ビジョンも総合戦略も名称自体がわかりにくいと感じる。2本立てでもよいかもしれないが、前者は居住者を豊かにする施策など、市民にわかりやすい名前に改めた方が理解しやすいと思う。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2本立てには無理があると思うが、行政としては様々なビジョンがあるため、すべてを1本化するのは無理な面もあると理解している。ただ、どんな事業であれ、その成果が市民やこれから三原に入って来る可能性がある人（関係人口）にどれだけ成果があったかが鍵だと思う。また、私の理解では、攻め・

	守りの計画ではなく、市全体の長期総合計画があり、これに紐づいた定住自立圏共生ビジョンがあり、このなかでも緊急性をもって重点的に取り組まなければならないものが総合戦略に挙がってくるという理解だった。
2 施策に対する意見（住み続けるために必要なこと）	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援が総合戦略には入っていて共生ビジョンには入ってなくて、事業が少ないと感じる。 (→他の委員からも同様の意見あり)
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て、子どもが基本的に施策として全体的に弱いため、市としては強化をしていただけたらと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・三原市から転出した社員の話になるが、中学～高校と進学する中で、子どもの選択肢を考えると三原はこれが少なすぎる点が転出した大きな要因とのこと。例えば、昔は三原から福山までの交通手段が充実していたが、今では減数し、仮に子どもが福山に行きたいといったときに対応しきれない状況。また、通勤者の声として、三原市から東部に向かう通勤手段が少なく不便という声も聞く。 ・教育と交通の両方にかかってくるものもあるが、このような視点での施策も必要ではないかと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・三原市に住んで三原市で働くことが政策の前提になっている気がする。三原のハローワークでいうと、福山市や広島市から通っている人がほとんどで、逆に三原市からこれらの地域に通勤することが可能なのか疑問がある。住み続けることに重点を置くのであれば、この点の施策を整備できればと考える。 <p>→【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住自立圏共生ビジョンが住み続けてもらうことにつながる計画という考えからすれば、今住んでいる人が幸せになることを考えると、先月、国において公表された Well-being 指標の評価項目も意識しながら、不足するものを補っていくという考え方で見直しを検討してみるのもどうかと思っていたところ。 ・通勤については、総合戦略の中で、住む場所を三原にして通勤してもらうための通勤費の支援ができないか施策として考えたことがあった。制度設計するところまで行きかけたが、ここでコロナが広がり、そもそも会社へ行かない状況が出てきたことで、通勤費の補助が政策として有効なのか内部で意見があり、結果として実現に至らなかった。
3 その他（事業に対する意見等）	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・素人目に見ると、三原の施策の全般的に言葉が難しすぎるどころやキャッチーなタイトルが少ないところが気になる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市内でも外国人技能実習生がかなり増えてきていると思う。実際、介護事業を支え

委員	<p>ているのは外国人技能実習生で、当法人の所内にも24人いる。法人は対応しながら取り組んでいるが、行政による対策が取られていない印象を受けるため、先を見て取り組んでいただきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居対策のほか、安定所のなかでよく出る事例として、子育てを理由に土日祝の休み（必須）を希望するお母さんが多いこと。職員の希望として、月1回でもよいため土日祝のいずれかで勤務が可能であれば、さらにここに巡回バスなどの交通手段があれば、働く場を確保できると考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の問題は、学力向上、小中学校の不登校、教員の就労環境（長時間勤務）、山間部の統廃合とこれに伴う通学など多くあり、「教育」は総合戦略や共生ビジョンのいずれにもあってしかるべき項目だと思う。 ・施策のなかに広域連携があっても良いと思う。広島広域都市圏、備後圏域、親善都市、姉妹都市など、いろいろな都市間のつながりのなかで魅力的な施策が行われており、もしそれなりの成果が挙げられているのであれば、成果として広げていくべきだと思う。 ・市民満足度調査の結果をみると、各地域で、重要度が平均より高く満足度が平均より低いものに充てられている項目が違うため、共生ビジョンの具体的な取組に記載の関係地域を、全地域ではなく、少なくとも三原・本郷と大和・久井は分けて、地域ごとに事業決定をしていくべきだと思う。 ・また、大和地域で地域交通が挙げっていたが、今後の地域交通については、必ずしも運送事業者がやらなければならないわけではなく、例えばNPO法人などが送迎を行うことが当たり前の時代になっているため、主体者（運営者）自体を広げていく取組も必要だと思う。また、生活圏の維持のため、鉄道、バス、自転車等の交通の組み合わせについても工夫する必要があると思う。さらに、用途の組み合わせとして、人以外に荷物を載せて運送するバスがあるように、市でも、過疎地域で野菜や果物を乗せて直売所まで運ぶなど、中山間地域での地域交通のあり方（貨客混載）を事業の中に工夫して入れていただくと面白いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・Well-beingについて、結局は大都市圏が住みやすい指標のようで、小さなまちには勝てない。それならどうしたらよいかを考えると、三原市の特徴としてどこかに強みがあると、その強みに関連のある人が集まってくると思う。 <p style="text-align: right;">以上</p>